

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 管理職は罰ゲーム 管理職になると幸福度や健康度がマイナスになる

1. そんな風潮（管理職の仕事が罰ゲームといわれること）は日本全体にとって大きなマイナスである。管理職への昇進が「賞」ではなく「罰」とみなされる風潮は、ただでさえ人手不足の企業にとっては大きな痛手だ。なぜ管理職は罰ゲーム化してしまったのか。
2. 一つは「組織のフラット化」だ。企業は人件費抑制などを目的に管理職削減やピラミッド型組織の見直しを進めてきた。その結果、一人一人の管理職が担う仕事、責任が劇的に増えたのだ。しかし、その分管理職の給与が増えたかといえば、そうではない。むしろ管理職と一般社員の賃金格差は縮小している。
3. ダメ押しとなったのは働き方改革や厳格化するハラスメント対応だ。セクハラ・パワハラ防止措置の法制化で部下に仕事を任せづらく、管理者が抱え込むケースが増えている。更に、プレイングマネジャー化、非正規雇用の増加、コミュニケーションの負担増加。様々な要素が「わな」のような存在となって、職務を覆うようになった。これらは組織全体の仕組みの中で、うまく役割分担をしながら対処すべき問題であるはずだが、そのすべてが管理職にのしかかってくる。管理職になると、幸福度や健康度がマイナスになってしまうのが実情だ。

(参考:「週刊東洋経済」2025年8月2日)

## 経営者のための危機管理

### 「脱・永守流経営」へ大方針転換した理由

1. 「売上高を10兆円にする」ということを言い過ぎた。6月20日に京都市内で開催された株主総会で、ニデックの永守重信グローバルグループ代表は、経営方針の急転換を認めた。永守氏が「30年度に10兆円」の目標を撤回した直接的な要因は、成長のけん引役に位置付けていた電気自動車(EV)用の駆動モーター「イーアクスル」の拡大計画が破綻したことだ。
2. ニデックが「30年度に売上高10兆円」の旗を降ろしたことで、もう一つの従来方針「株価至上主義」も揺らぎ始めている。これまでのニデックは、永守氏が掲げた売上高10兆円というビジョンを株式市場に示すことで、時価総額を押し上げる経緯がある。
3. ニデックの時価総額は21年2月に8兆円を超える規模となりピークを付けた。当時は、日産自動車出身の関潤氏が社長を務めていたが、その後、永守氏は「業績不振」を理由に関氏を解任した。しかし、岸田社長にCEOを譲った後も時価総額の下落は止まらず、今年4月には2.4兆円まで落ち込んだ。時価総額の回復が遅れれば永守氏から「交代」を迫られるシナリオが再び浮上する。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2025年9月6日号)

## 新規成長分野

### ヤマトの「置き配」、1年で2倍に

1. ヤマトホールディングス(HD)は7月、置き配の指定個数が前年比で約2倍になったと発表した。事業者だけでなく、受け取る側のお客さまにも需要の変化が生じている。要望に合わせてサービスを拡大した結果、置き配の個数は増えたのだ。
2. ヤマトHD傘下のヤマト運輸は2024年の6月から「宅急便」「宅急便コンパクト」の受け取り方法に、新たに「置き配」を追加。個人向け会員サービス「クロネコメンバーズ」の会員は、対面以外の配達方法を柔軟に選べる。希望者は、「玄関ドア前」「自転車のかご」など数カ所から好きな場所を指定できる。
3. 24年10月、ヤマト運輸が約1800人を対象にした調査によると、運送会社を問わず、これまで置き配を利用した事がある人は80%近くに上った。SGホールディングス(HD)傘下の佐川急便も、24年9月に置き配を選べるサービスを開始。置き配は一つの選択肢として消費者にとっても身近になっているようだ。

(参考:「日経ビジネス」2025年9月8日号)

## 古典に学ぶ

### 私たち自身もまた、見知らぬ誰かの役に立っている

1. 「誰もが、見知らぬ誰かを支えている存在」。もとより私たちは、他人の力を借りなければ一日たりとて生きていくことはできません。
2. この社会は、それぞれの人々がいとむ仕事と、そこから生まれる縁によって成立します。同時に、私たち自身もまた、見知らぬ誰かの役に立っています。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)